

買い物から社会は変わる

2012年11月15日エコ・リサ学習会報告



講師は、環境カウンセラーであり「みどりの会」代表の岩田京子さんです。地元の吉川市に基軸を置きながらも、地域に留まらずに幅広く環境問題を考え実践活動と情報発信に積極的に取り組まれている豊富な知識と経験の中から、今回は食べ物を中心に「世界の中の日本の現状」を一緒に「自給率・地産地消」「熱帯雨林」「遺伝子組み換え食品」「容器包装リサイクル」「多国籍企業」などの様々な問題を取り挙げてご講義いただきました。

学習会に参加されなかった方のために、ぜひ知っておいて頂きたいトピックスとして

- (1) 日本のフードマイレージの品目別割合では穀物が約 51%を占めており、牛肉／鶏肉それぞれ 1kg 育てるのに必要な 10~20kg/4kg の飼料の自給率は 9.7% でほぼ 9 割を輸入に頼っている。(牛肉より鶏肉を選んで食べれば、エネルギーは 1/5 で済む！)
- (2) 地球の肺である熱帯雨林が皆伐され、私たちの生活のためにプランテーションや牧草に変えられ犠牲になっている。
(ハンバーガー1個食べると6畳分の熱帯雨林を破壊！)

(3) 遺伝子組み換え(GM)作物は、動物実験で内臓器変異、低体重、凶暴性が発現しており(子供だけでなく大人もキレやすい⇔GM食品が一因?)、また日本のGM食品表示制度では、食用油や醤油は表示義務がなく、表示義務のものでも重量比 5%までの混入を認めている。「遺伝子組み換えではない」の表示でも 5%未満は入っている可能性あり！)

(4) 買い物でお金を使うのであれば環境の視点で選ぼう。① 2Rで選ぶ: 溢れるものをリサイクルするのではなく元を断つ、② マークで選ぶ: 環境ラベルなどの表示、③ 商品の裏側まで知って選ぶ: 多国籍企業・先進国の人が発展途上国の人犠牲の上に乗っている。

(地域の中で、自分たちの住む場所・食べ物・ゴミを循環していける社会を目指す)

を列挙しますが、その他盛り沢山の講義内容については紙面の都合で割愛いたします。詳しくは「みどりの会」が集大成として発行された第5弾「エコ生活ガイド」(100円)をぜひご購入、お読みいただくことをお勧めします。

サラリーマンである者にとっては、日頃妻が買い物して料理した食事を何気に食べている生活の中に、様々な深い問題が山積していることに改めて気づきました。今後は、妻の買い物に付き合い、リターナブルビンの地ビールを片手に地産の旬菜を家族で食べながら、グリーンコンシューマーについて話し合うことから始めていこうと考えています。(報告: 中山文嗣)

石けんでシンプルライフ

講師の田中輝子さんは、現在、「合成洗剤をやめていのちと自然を守る埼玉連絡会」に所属して、「ミジンコくらぶ出前講座」を通じて化学物質が人や自然に及ぼす危険性をお話しする活動などを行っています。こうした活動はもう20年以上になるそうです。

その原点は、ご主人の転勤で大阪に1年余り生活したときに、水道水の悪臭にビックリして、その原因を調べたところ、川の水の汚染が原因であることと知り、汚染防止の活動に加わったことにあると話されました。埼玉に戻られた後も約6年間にわたり水生生物についての調査を続けられたとのこと。

1996年、飯能に住む知人から水道水が泡だっていると聞き行ってみると、取水場のすぐ上流にゴム工場があり、そこから出る排水が原因ではないかと分析機関に依頼して調べたところ、非イオン界面活性剤が流れ出ていることが分かりましたが、当時はそれを規制する法律はなかったそうです。

その後、埼玉県と協議したり、非イオンの水道水水質基準設定を国に働きかけ、基準値を0.02mg/lとする制度が2004年にできましたが、この間、約8年間もかかったそうです。長い間の努力で大きな成果を上げられました。

また、合成洗剤の有害性を訴え、石けんの使用を広める活動にも積極的に取り組み、結果、埼玉県が庁内で石けん使用の方向を決めた時には、日本石鹼洗剤工業会の横やりが入って苦勞したそうです。市民運動には、様々な圧力が入るが、目的達成に

は言うべきことは言うことが大切だと話されました。

講演では3つの実験を行いました。

かいわれ大根の発芽実験では、種を「水」「石けん水」「合

成洗剤水」の3種類の溶液で発芽させ、その生長を観察するというものですが、水と石けん水では、根がしっかりと水中に伸びて生長していますが、合成洗剤水では、根が水に浸かることをいやがり、生長できません。大変びっくり致しました。

石けん歯磨きと合成界面活性剤入り歯磨きで、歯磨き後にオレンジジュースの味を比べる実験では、味覚に違いがあることも分かりました。これは、歯磨き剤に泡立ての為に合成洗剤の成分が含まれており、舌の細胞が変性されたためだそうです。

また、衣類を白くする為に使用している蛍光増白剤入り合成洗剤の実験では、布を合成洗剤に浸けた後、しぼった布をブラックライトに当てると不気味に青白く光って、1回で蛍光増白剤に染まってしまうことも分かりました。



シャンプーにも合成洗剤が使用されていて、合成シャンプーを使用するとキューティクルがボロボロになるそうです。メーカーはそれを隠す為に、ジメチコンというプラスチック成分の化学物質で髪の毛を覆う方法が使われていて、それは魚にもまとわり付き、呼吸ができなくなってしまうそうです。石けんは1日で分解するが、合成洗剤は30日かかっても分解しないものもある、とのことでした。シャンプーで髪を傷めて、「ダメージヘア用」としてまたシャンプーを売る、いわば往復ビンタ商法を行っていると話されました。

現在、多くの方が化学物質過敏症を発症し、身の回りに氾濫する化学物質に苦しんでいます。田中さん自身も合成洗剤に触れると、タンパク変性作用で手の皮膚がめくれてしまうそうです。今後、誰もが発症の危険性を抱え、他人事ではないと強く話されました。

現在、P R T R法により、合成洗剤の成分の9種類が有害化学物質に指定されています。

大事なことは、有害化学物質を家に入れない注意をすることで、一旦、家に入れるとその処分は専門業者に依頼しなければならず、高い費用がかかり困る事になります。家庭から排出される化学物質の約60%は合成洗剤から、21%はトイレの消臭剤・衣類の防虫剤からだそうです。

一般の消費者にとっては、合成洗剤の成分表は分かりにくいですが、石けんの成分表は単純。それでもわからない時は、コップに洗剤を入れて泡立て、そこに酢を入れるとサッと泡がなくなれば石けんだそうです。これなら誰でも確認することができますね。

特にシャンプー、化粧品は表示が異なっているのに、化学物質入りかどうかを見分けるには、石けん素地表示があるかどうか、また、成分がたくさん表示されたものは合成洗剤だと考えて間違いそうです。

私達は毎日、テレビで合成洗剤のコマーシャルを目にしますが、マスコミは利益のため、合成洗剤メーカーの広告宣伝に加担して正しい情報を流していないと、更に、国は生産者寄りの為、市民が根気よく何度も働きかけしなければ取り上げられないと話されました。多分その通りだと思います。

消費者としてできることは、国の責任をいう前に、自分達が合成洗剤を買わない事。地球の水は循環しており、いつまでも美味しい水が飲める社会を作ることは、自分達の責任です。我が家地球と思える人になって欲しいと願っていました。

これからは、合成洗剤の毒性と石けんでライフスタイルを変える楽しみを覚えて欲しいと締めくくられました。

最後に、会場からの石けんのニオイがいや、という質問に対して、香料が化学物質過敏症の人には大変なので、石けんには香料を少ししか入れていないと答えていました。

私達の普段の生活に潜む危険について認識する貴重な講演でした。(報告 高橋茂仁)

